

高校生の就職率は 89%、2 年連続で上昇

- 回復傾向ながら、6 年連続で 9 割未満 -

平成 16 年 5 月 旺文社 教育情報センター

5 月 13 日に発表された、文部科学省の就職状況に関する調査によると、今春の高校卒業者のうち、就職を希望する者の就職率は、16 年 3 月末現在で 89.0%（前年同期比 2.3 ポイントアップ）と 2 年連続で上昇したことが判明した。企業の採用に回復傾向が見え始めたといえるが、就職率自体は 6 年連続で 9 割を切っており、就職未決定者も約 2 万 5 千人いるなど、高校生の就職状況は依然として厳しさが続いている。

< 概 況 >

同省初等中等教育局児童生徒課が行った本調査は、国立については国立大学、公立については各都道府県教育委員会、私立については各都道府県知事部局を通じ、全高校を対象に行った“悉皆調査”である。

今回判明した就職率（就職者の就職希望者に対する割合）は 89.0%であり、過去 2 番目に低かった 14 年同期の 86.7%を 2.3 ポイント上回った。卒業生約 123.6 万人のうち、就職希望者は約 23.1 万人。このうち就職決定者は約 20.6 万人、就職に至っていない者は約 2.5 万人（男子約 1.1 万人、女子約 1.5 万人）となっている。

内定率を男女別に見ると、男子は 91.5%、女子は 85.9%で、14 年同期に比べて男子は 2.4 ポイント、女子は 2.2 ポイント上回った。

学科別に見ると「工業」(95.1%)、「水産」(91.3%)、「農業」(91.0%)、「商業」(90.5%)、「総合学科」(88.5%)、「看護」(87.8%)、「家庭」(87.2%)、「普通」(84.1%)の順となっている。「看護」(1.1 ポイント低下)を除く各学科とも、14 年同期を上回った。

都道府県別に見ると、42 都道府県で就職率がアップ、2 県が同率、ダウンは 3 県に留まった。就職率が高いのは、福井県 (96.6%)・三重県 (95.8%)・山形県 (95.6%)・山口県 (95.6%)・徳島県 (95.5%) の順。一方、就職率が低いのは、沖縄県 (70.8%)・北海道 (78.9%)・大阪府 (80.6%)・高知県 (80.8%)・福岡県 (83.8%) の順となっている。

また、就職率アップが顕著なのは、沖縄県 (10.0 ポイント上昇)・秋田県 (93.5% : 6.3 ポイント上昇)・千葉県 (89.7% : 6.0 ポイント上昇) など。一方、就職率がダウンした 3 県は、栃木県 (90.4% : 1.2 ポイント低下)・群馬県 (93.2% : 0.3 ポイント低下)・富山県 (95.5% : 0.1 ポイント低下) となっている。

なお、調査結果の詳細については、文部科学省のホームページ (<http://www.mext.go.jp/>) 中の「新着情報 2004 年 5 月 13 日」または「報道発表一覧 平成 16 年 5 月 2004/5/13」をご覧ください。